

BPO 報告

Broadcasting Ethics & Program
Improvement Organization

NO.87
2010.8.15

放送倫理・番組向上機構

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町1-1千代田放送会館7階
TEL. (03) 5212-7320 (事務局代表) FAX. (03) 5212-7330
<視聴者応対専用電話>(03) 5212-7333 <http://www.bpo.gr.jp>

放送人権委、「上田・隣人トラブル殺人事件報道」事案で見解

○今号のトピックス○

検証委：TBSから「ブラックノート」対応報告
人権委：「大学病院教授からの訴え」審理入り
青少年委：ドラマ、バラエティーの2番組を審議
BPO：第2回事例研究会を開催

放送倫理検証委員会

■第40回委員会の概要

第40回放送倫理検証委員会は7月9日に開催された。

TBSの複数の番組で放送された「農水大臣が外遊先でゴルフをしていた」という報道が誤報であった事案について、当該局から提出された経緯報告書をもとに、2回目の討議を行った。その結果、取材で得た情報がニュースデスクに共有されないなど、重大なミスが内在していたこと、お詫び放送の伝え方に不備があったことなどが、改めて指摘された。委員会として審議入りはしないが、当該局に対するウォーニングとして、議論の内容をBPO報告で詳しく紹介することにした。

バラエティー番組で、睡眠から目覚めたときの脳の働きについて、被験者のペーパーテストで調べる実験を行ったが、間違ったテスト結果が放送された。制作過程のミスであり、社会的な影響もないので取り上げないこととした。

参議院選挙に関する放送で、比例代表の特定の候補者だけ取り上げて紹介した報道番組や、候補者の名前をクイズ問題に出したバラエティー番組等に、公平公正の観点から疑問があると、視聴者から指摘が寄せられた。これらの番組については、

当該局から報告書を提出してもらった上で、次の委員会でもまとめて討議することにした。

委員会が4月に出したTBSブラックノート事案の「意見」に対して、当該局から改善策が提出されたので検討の結果、了承することで一致した。

東京以外の放送局と検証委員会との意見交換会について検討した結果、開催に向けて準備に入ることにした。

事務局からは、この夏に開催される2つの勉強会の案内があった。

○農水大臣が外遊中にゴルフをしていたと誤報したTBSの『みのもんたの朝ズバッ！』およびニュース番組

TBSは5月20日の『朝ズバッ！』およびその他のニュース枠で、複数の民主党幹部の取材に対する発言をもとに、口蹄疫発生後に中南米に外遊した当時の農水大臣が外遊先でゴルフをしていたと報じた。しかし、その後誤報であることが判明したとして、当日昼前のニュースでお詫び放送をし、社内処分も実施した事案。

委員会は、取材から放送に至る経緯の説明には明確でない部分があるとして、改めて当該局に質問書を出し、提出された詳細な経緯報告書をもとに、2回目の討議を行った。

報告書の中で当該局は、「記者が取材先で得た重要な情報が、ニュースデスクに伝わっていなかったこと」「記者の思い込みなどから、裏付け取材が不十分だったこと」などを認める一方、番組の制作担当者の連絡ミスからニュース原稿は「民主党幹部の発言の引用」であるのに、画面表示で

はゴルフをしたことが一部で断定的な表現になってしまった、などと説明している。

委員の中からは、他のメディアも同じように取材しているのにTBSだけが誤報をしたという事実を重く受け止める必要がある、現職閣僚の進退につながりうる報道なのに裏付け取材が甘い、お詫び放送の伝え方が曖昧で関係者や視聴者に対する謝罪になっていない、などの厳しい指摘が出された。

委員会は、当該局からの詳細な報告書によって、事実関係や問題点の所在がほぼ判明したこと、当該局はすでに誤報に至った原因を解明し、局内処分をし、再発防止策もとっていること、不十分とはいえ迅速なお詫び放送もなされていること、この事案を委員会が審議の対象にすることは、政治家への取材や監視を不必要に萎縮させるおそれもあり好ましくないことなどから、審議入りはしないこととしたが、当該局に注意を促すウォーニングとして、議論の内容をBPO報告などで詳しく紹介することにした。

【委員の主な意見】

- 今回の報告書で、かなり詳細な経緯まで分かったが、記者の取材した情報が指揮をとるデスクに正しく伝わらないというのが本当だとしたら、大きな問題だ。
- ぶら下がりなどで他社も同じような情報をキャッチしていたということだが、それではなぜTBSだけが放送に踏み切って誤報を出してしまったのか。裏付け取材の不備などと簡単に言うのではなく、重く受け止める必要がある。
- ゴルフをしていたという情報をつかんで、これでいけるという雰囲気や思い込みのようなものが記者、キャップ、そしてデスクにも広がったのではないかと。仮に民主党幹部がそう発言しても、現職閣僚のクビがかかったニュースなのだから、現地を含めて徹底的な裏付け取材をしなければ放送できないはずだ。
- 倫理上の問題というよりも、取材者として、報

道担当者としての資質の問題とも言えるのではないかと。そうならば、この委員会で議論する問題ではない。

- 当該局は最後まで、大臣が実際にゴルフをしていたかどうかの事実関係を伝えていない。伝えているのは、大臣自身が否定の会見をしたことと、民主党幹部が発言を翻したということだけ。報道機関として、事実はどうだったかをきちんと確認して、客観的に伝えるべきだった。
- その部分がきちんと押さえられていないから、お詫び放送も、誰に何をお詫びしているのか曖昧なままになっている。
- 今回の事案は、ファクト(事実)とクォート(引用)の関係が問題になった。もちろんクォートとしてでもニュースとして伝えるべきケースもあるが、その場合きちんと区別をして伝えなければならない。
- 政治問題や政治家に対するメディアの監視が重要であることは、言うまでもない。誤報はむしろ良くないが、誤報の原因が究明され、すでに対策も取られた事案であり、むしろメディア側が不必要に萎縮することのないよう審議入りは控えるべきではないか。
- 確かに審議入りしての議論までは必要ではないと思うが、さまざまな課題が浮き彫りになった事案だ。当該局に注意を促す趣旨で、BPO報告やホームページなどでは、議論の中身をできるだけ詳しく紹介してほしい。

○寝起き時の脳の働きを調べる実験データに改竄があったTBSの「がちりアカデミー」

TBSのバラエティー番組「がちりアカデミー」(6月18日)で、寝起き時の脳の働きを調べるために、深い眠りと浅い眠りではどのような違いがあるかについて、被験者のアシスタントディレクターへの簡単なペーパーテスト(計算問題)が行われた。その中で、1問目の解答が不正解であるカットが放送されたにも関わらず、結果は100点だ

ったのはおかしい、と視聴者から指摘があった。当該局は誤りを認めて、7月2日にお詫び放送をした。当該局は、予備のカットを使ってしまったという単純な編集ミスで、意識的な数字の改竄ではないと説明している。また、この実験は厳密な科学実験ではなく、深い眠りと浅い眠りの違いをわかりやすく示すことが目的なのだから100点でも80点でも大差はなく、社会的に大きな問題があるとはいえない。

勿論、編集ミスから放送にいたるまでのチェック機能が働かなかった結果、間違ったデータを放送したことについて当該局は反省すべきだが、既に非を認めて丁寧なお詫び放送をしているので、取り上げないことにした。

【委員の主な意見】

- 視聴者が気がついたことを、編集段階で何人もスタッフが下見しているのに気がつかないことが情けない。
- ミスの内容は明白だし、お詫びもきちんとしている。それによって健康被害が起きたわけでもないし、社会的な影響もない。
- この事案もそうだけれど、全体にケアレスミスが多すぎる。すみませんでしたとか、気がつきませんでしたとか。

○参議院選挙に関して不適切な内容があった複数の番組

放送で選挙を扱うときは番組のジャンルに関わらず、公平公正を常に留意しなければならないが、このたびの参議院選挙においては複数の番組に対して視聴者から、公平公正の観点から疑問があるとする意見が寄せられている。番組を視聴し、当該局に報告を求めた上で、次回の委員会で一括して討議することにした。

○TBSから提出された「報道特集NEXT」ブラックノート事案の改善策について

民放連の申し合わせに従い、4月に委員会意見

が出された「ブラックノート事案」について、TBSから具体的な改善策を含めた取り組み状況が提出された。委員会は報告書を検討し、了承した。なお、報告書はBPOのホームページに掲載した。

○東京以外の局と検証委員会との意見交換会の開催

委員会の活動や決定内容を深く知ってもらうことについては前回の委員会で議論したが、広く知ってもらうために、委員が地方に出向いて意見交換をすることが提案され、初回は大阪エリアを候補地とすることで承認された。

○連絡事項

7月29日に、民放連とATPが開催する放送倫理セミナー「バラエティー番組と放送倫理」(水島委員が司会)の案内と、8月3日にBPOが開催する事例研究会の出席要領について事務局から説明があった。

■放送と人権等権利に関する委員会

「上田・隣人トラブル殺人事件報道」事案の「委員会決定」の通知・公表が8月5日に行われ、テレビ朝日に対し「放送倫理上問題あり」という見解が通知された。

第163回放送人権委員会が7月20日に開かれ、「機能訓練士からの訴え」事案のヒアリングと審理の結果、「委員会決定」の方向が固まった。大病院教授から申立てのあった審理要請案件について審議し、審理入りが決まった。

次回委員会は8月17日。

■「上田・隣人トラブル殺人事件報道」事案でテレビ朝日に「見解・放送倫理上問題あり」～8月5日通知・公表

テレビ朝日が2008年12月23日の『報道ステーション』で放送した「特集 身近に潜む境界トラブルの悲劇・住宅地の惨劇はなぜ起きた」について、被害者の遺族が申し立てた「上田・隣人トラブル

殺人事件報道」事案の「委員会決定」の通知・公表が8月5日に行われた。

「委員会決定」は、申立人が主張していた両親および申立人に対する名誉毀損についてはこれを否定した。しかし、本件報道には、取材段階および編集・放送段階のいずれにおいても、犯罪被害者と遺族の名誉と生活の平穏に対する十分な配慮に欠ける点があったと指摘し、放送倫理基本綱領や民放連の報道指針に照らして、「放送倫理上問題があった」という判断を示した。(詳細次号)

■第163回委員会の審理

○「機能訓練士からの訴え」事案のヒアリングと審理

本事案は、2009年4月11日にTBSテレビが『報道特集NEXT』で放送した「車イスの少女が入学できない訳」に対し、少女が幼い頃から機能訓練を受けている機能訓練士が肖像権の侵害等を申し立てたもの。

今月の委員会では、申立人および被申立人であるTBSに対するヒアリングとヒアリング後の審理を行った。

申立人は、最も訴えたいこととして「TBSは1回目の放送では申立人らに無断で、申立人らが登場する少女の機能訓練の映像を長々と使用した。2回目の放送では、申立人らにとっては不本意な字幕表記を映像に加えただけだった。しかも、そのように多くの映像を使用しながら、申立人らに対し何ら取材も行わないなど、番組に登場した他の人物と比較すると扱いが軽んじられた」と述べた。

一方、TBSへのヒアリングには報道局の番組担当者ら計4名が出席し、「番組の目的や趣旨から機能訓練の映像は欠かせないものであり、少女の親が撮影した映像であること等から、申立人らが登場しても特に問題はないと判断した。とは言え、申立人からの苦情を受けて、やはり配慮が足りなかった面もあったことは認めて謝罪した。その後のやり取りでは、報道番組である当番組において

申立人らの活動の宣伝にならないよう、その点に特に注意して対応した」などと述べた。

ヒアリングの後の審理では、申立人が主張している肖像権の侵害があったかどうかを中心に議論した。その結果、「委員会決定」の方向性がほぼ固まり、起草委員が決定案をまとめることになった。

次回8月の委員会で、「委員会決定」案の審理を行う。

○「上田・隣人トラブル殺人事件報道」事案の審理

この事案は、テレビ朝日が2008年12月23日の『報道ステーション』で放送した「特集 身近に潜む境界トラブルの悲劇・住宅地の惨劇はなぜ起きた」について、被害者の遺族が申し立てたもの。

今月の委員会では、2回目の起草委員会を経て修正された決定案が審理され、大筋で了承された。若干の手直しのうえ、持ち回り委員会により最終了承される運びとなった。また、一部の委員は決定案を支持する立場で「意見」を書く意向を示した。

本事案で申立人は、事実に反する放送内容によって両親に対する敬愛追慕の情や名誉を侵害されたなどとして、謝罪と訂正を求めている。

これに対し、テレビ朝日は、放送内容は虚偽ではなく名誉侵害などの不法行為はないと反論している。(前記のとおり、8月5日に通知・公表が行われた)

○審理要請案件「大学病院教授からの訴え」、審理入り決定

テレビ朝日・朝日放送は2010年2月28日の『サンデープロジェクト』の特集コーナーで「隠蔽体質を変える～大学病院医師の孤独な闘い～」を放送した(番組は今年3月に終了)。この番組に対して、大学病院の教授から人権侵害等の申立てがあった。

番組は、医療をめぐる裁判では、原告側(患者

側)が勝つ割合が一般の民事裁判に比べてはるかに少ないが、これは医療界に根強い隠蔽体質にも原因があるとして、これを告発し続けるある大学病院医師の活動を通して医療界の現状を浮き彫りにしようとするものであった。そして、医師の勤める大学でも、かつて患者が薬の臨床試験をめぐる起こした裁判で、医師の探し出した記録がもとで患者側が勝訴したことや、こうしたことがもとで医師が上司である教授からパワーハラスメントを受けたことを取り上げ、教授に対し直撃インタビューを行っている。

これに対して教授は「拒否したにも関わらず、自宅前でいきなりインタビューされたのは自分に対する著しい人権侵害であり、番組自体も一方的な偏向報道である」として3月にテレビ朝日に対して抗議した。

抗議を受け、テレビ朝日と教授の間で2回にわたり文書や電話によるやり取りが交わされたが、話し合いは進展せず、教授は5月末に申立てを行った。直接交渉は申立て後も継続されたが、結局、解決には至らなかった。

このため、委員会は今月の委員会で双方から提出された文書や番組DVDを基に審議した結果、本案件は運営規則に定められた要件を満たしているとして審理入りすることを決めた。実質審理は8月の委員会から開始される。

申立人の主張に対して、テレビ朝日・朝日放送は「教授は裁判や医師に対するパワーハラスメントの当事者であり、取材に応じるべき立場にあった。また番組は多角的な取材に基づいた中立・公正なもので、医療界の体質改善に資する方策を提示する目的だった」と主張している。

■放送と青少年に関する委員会

第114回青少年委員会は7月27日に開催され、6月16日から7月15日までに青少年委員会に寄せられた視聴者意見を基に、ドラマおよびバラエティ各1番組について視聴し審議したほか、中高生モニター報告について審議した。

■青少年委員会の審議

○視聴者意見について

◎フジテレビ『JOKER ジョーカー 許されざる捜査官』7月13日放送分について

このドラマの放送表現について「子どもの殺害シーンがひどすぎる」「子どもを持つ親として見るに堪えない」といった批判意見が寄せられ、番組を視聴の上、審議した。

【委員の主な意見】

- しっかりと番組は制作されている。初回なので主人公の幼児体験、犯人の精神性や境遇を説明する必要があり、ドラマとして問題はない。
- 表現も配慮され、殺害シーンに関しても抑制されており、委員会として対応すべき問題はない。
- 多数の意見が寄せられたのは、子どもが被害者であるということ、映像より音声で殺害シーンが表現されたことがかえって怖いという印象を与えたのではないか。
- この番組自体に問題があるとは思わないが、最近のドラマには、これまでに比べ過激なシーンが増えている感じがする。ドラマと現実を重ね合わせて見ることも考えられ、青少年への配慮が一層求められる。

以上の審議を踏まえ、委員会としては当該番組に問題はないが、最近の傾向としてBPOにドラマの凄惨なシーンや暴力的表現についての意見が見られることから、あらためて青少年への配慮を意識して、番組制作にあたっていただくよう要望することとした。

◎TBS『リンカーン』7月13日放送分について

番組内で行った5つのゲームについて「危険なゲームで、セクハラ・パワハラ的な内容だ」「(椅子を回転させるゲームについて)出演者が顔面蒼白になっているのに司会者が無視し、大変危険でイジメにもつながる」等の意見が寄せられ、番組を視聴の上、審議した。

【委員の主な意見】

- 子どもへの影響以前に、危険なゲームの連続で、とても笑って見られる番組ではなく、安全管理

という観点から、制作者は何を考えているのか。これがバラエティーとして許されるのか。

- 面白く笑って見られた。視聴者は出演者が体を張っている姿を見て楽しめたと思う。確かに回転椅子は少しやりすぎかもしれないが、全体としてはそれほど問題があるとは思わない。
- 安全管理というより、回転椅子に関して、やはり立場の弱い者がいじめられている印象を受け、視聴者に不快感を与える。この番組の問題はそこにあるのではないか。
- バラエティーは大掛かりな仕掛けを使わないと笑わせられなくなっているのだろうか。制作者はどういう方向で番組を作ろうとしているのだろうか。

以上の意見のように、委員の番組に対する印象や問題点が分かれたため、委員会としては次回9月委員会で当該番組担当者と意見交換を行うこととした。

○中高生モニター報告

今月は「バラエティー・クイズ番組、音楽番組」の中から、「自分の見たい番組」「自分の創りたい番組」の企画を作ろうというテーマで、33人から34本の企画が寄せられた。

【モニターの主な意見】

寄せられた企画の内訳は、バラエティー番組が17本、クイズ番組が6本、音楽番組が8本、そのほかゲーム番組とデータ放送連動型番組、ラジオ番組が各1本だった。

バラエティー番組の企画では、視聴者参加型の番組と司会者から番組のイメージを組み立てた提案が目立った。企画『Ordinary Students』（普通の学生たちの意味を込めて、略して『OS』）は、小中学生が主役で、放送局の力を借りてドラマを作ったり学生の流行を追いかけてたりしようというもので、かつて放送されていた『学校へ行こう！』（TBS系）を強く意識したものだった。そのほか『お笑いオーディション』という番組は、アマチュア芸人のオーディション番組で、審査には著名

な審査員に加えて一般視聴者も参加させたいという提案であった。

一方、タレントを起用した企画には『アリタテッペイ株式会社』『お疲れさまあ〜ず』『柳田理科雄の空想科学研究所〜アニメを大真面目に考えてみました』『テリー伊藤の視聴者参加型の番組』などがあった。『アリタテッペイ株式会社』はくりむしちゅーの有田哲平を社長にアンタッチャブルの山崎弘也や有吉弘行たちを社員に、台本なしの企画をプレゼンして実現させようというもの。放送時間帯も仕事帰りのサラリーマンや、ちょっと夜更かし好きな中高生のために午後11時台を設定。さらに昨今の経済状況を考慮して、豪華なセットは使用せず、ゲストも人気者はあまり呼ばず、ロケ費用も節約することが注意事項として付記されていた。また『お疲れさまあ〜ず』という企画は“ゆるキャラ”のさまあ〜ずと“天然ボケ”のふかわりょうを起用して、仕事帰りのサラリーマンをターゲットに、肩の力をぬいたトーク番組はいかが、というものである。

そのほか、最近お笑い系の番組が終了したこともあり、“お笑いバトル”をテーマにした企画『最強・最笑の芸人グランプリ!!』や素人が芸を競う『お笑いオーディション』、お笑い芸人が仕切る『アドリブおとぎばなし』というものや、タイトルに凝った『笑魂（わらたま）』『キャラなぞ!?!』といった企画も寄せられた。

次に、ドキュメンタリー風バラエティー『大志、エキスパート』（仮題）という企画や、クイズを交えた『飛行機マニアックTV』『進め！歴男・歴女』といった自分の趣味や学習につなげたいという企画、もっと中高生に身近なクイズ番組『小学生から大人まで楽しめる ザ・クイズショー』といった企画も寄せられた。

今回、特に目立ったのが音楽番組である。なかでも、かつて放送されていた『三宅裕司のいかすバンド天国』のような視聴者参加型の「バンド番組」という提案が3人から寄せられた。そのほか音楽イントロクイズをより充実させたいという

『Speeed☆Staaage』、ジャニーズやアイドルによりスポットを当てたいという『じえい!』や『Music and Talk』という企画もあった。

また、来年に迫った地上デジタル化に対応した「データ放送連動型の新番組」や中高生のリスナーが多いことからラジオ番組『Love School』という提案が寄せられた。この番組には「昼間は学校で、夜は『Love School』で楽しんでほしい」と書き添えられていた。

「今月のキラ★報告」は7月の委員会では選ばず、NHKを含む在京キー局の「バラエティー・クイズ番組、音楽番組」のプロデューサーやディレクターの方にモニター報告を読んでいただき、「この企画いいね」「この発想は実現可能かも…」と思われる企画にひと口コメントをいただきたい旨、要請することとした。

【委員の所感】

- 視聴者参加型の企画を考えた中高生が目立っていた。内容的には濃淡があるとはいえ、時代の雰囲気や社会状況を反映させたいという企画では「現代の日本には頑張っている人が少ない。将来に期待が持てない」などと分析、「夢や希望が持てる、元気になれる企画を」と考えた提案が印象に残った。
- 番組ジャンルを超えて目立ったのは、視聴者参加番組の視点でインターネットとテレビを融合させた企画（『テレビでYouTube』など）や、来年に迫ったテレビの地上デジタル化と連動した企画も若者らしい発想だと感じた。
- ラジオの市場が縮小し、若いリスナーが減っているといわれる中、日替わりのパーソナリティーと中高生たちが音楽はもとより時事ネタから流行まで多様なテーマをやりとりしようという企画には、自分たちがそこに参加しようという強い意欲が感じられた。
- 一週間の生活から「仕事の疲れがピークに達する水曜」あるいは「ホッとする週末の金曜」に

はどんな番組が適しているか、キャスティングや番組内容を含めてまとめられた企画もあり、サラリーマンなどの生態をよくつかんでいると感心させられたり、テレビ局の収益が伸び悩んでいる事情はとっくに承知と見え、制作コストを心配したり、グッズ等の放送外収入を当て込んだりした企画には思わず苦笑いさせられた。

2010年7月の視聴者意見

7月に電話・FAX・郵便・EメールでBPOに寄せられた意見は1,526件で、6月と同数であった。

【視聴者意見のアクセス内訳】

方法／ Eメール63% 電話33% FAX2%
手紙ほか2%

性別／ 男性73% 女性23% 不明4%

世代／ 30歳代32% 40歳代25% 20歳代18%
50歳代11% 60歳以上10% 10歳代3%

意見項目		7月件数	年度累計
意見分類	人権等に関する意見	0件	6件
	放送と青少年に関する意見	123件	499件
	放送番組全般にわたる意見	878件	4,108件
	BPOに関する意見・問い合わせ	18件	88件
	その他(放送関連以外)	507件	2,100件
意見件数合計		1,526件	6,801件

視聴者の意見や苦情のうち、番組名と放送局を特定したものは、当該局のBPO責任者に「視聴者意見」として通知。7月の通知数は217件（23局）であった。

このほか、放送局を特定しない放送全般の意見の中から抜粋し、42件を会員社に送信している。

概要

○人権等に関する苦情(人権委員会)

7月の苦情件数は以下の通りです。

1. 審理・斡旋に関する苦情・相談 ……………0件
(個人または直接の関係人からの要請)
2. 人権一般の苦情や批判 ……………45件
(人権問題、報道被害、差別的表現など一般視聴者からの苦情や批判)

○青少年に関する意見(青少年委員会)

放送と青少年に関する委員会に寄せられた意見

は123件で、前月と同数だった。

今月も、バラエティー番組を中心に低俗・モラルに反するとの意見が37件と最も多く寄せられた。次いで、ドラマ番組での子どもの殺害シーンなどに対して「残虐だ」「見るに堪えない」などの批判意見が集中的に寄せられた(25件)。また、特定のジャンルに限らず、「性的表現」に関する意見も幅広く寄せられた(13件)。

○番組全般にわたる意見

7月の視聴者意見は1,526件と、先月と同数であった。

大相撲名古屋場所のテレビ中継中止の是非をめぐり、賛否両論多くの意見が寄せられた。相撲中継の中止、ダイジェスト版による放送ということになったが、その後も角界をめぐる暴力団がらみの不祥事が報道されるたびに、視聴者から厳しい批判が相次いだ。

参院選挙は民主党が大敗し、衆参ねじれ国会となった。選挙に関する意見では、情報番組のキャスターや評論家、コメンテーターの見解が強く前に出すぎていて、世論を誘導しているとの批判や、候補者の取り上げ方も一部公平性に欠けるものがあるなどの指摘があった。政治報道については、内閣支持率など世論調査を頻繁に報道することへの疑問も出された。

バラエティー番組では、長時間にわたって続けられたスペシャル番組で、炎天下倒れるまでタレントを走らせていたなどの批判や、回転する椅子に座らせた芸人を倒れるまで執拗にいじめたなどの意見が寄せられた。ドラマでは、子どもを殺すなど残虐なシーンが多すぎるとの意見があった。

来年7月の完全地上デジタル放送に向けて地デジ化テストが行われ、アナログ放送がレターボックスでの放送に移行したが、受信機をまだ買い替えていない人や、受信環境が整っていない人などから、視聴者への配慮が欠けているなどの苦情が寄せられた。

番組出演者に関する意見は、「不適切な発言」

の検索で34件、「不適格な出演者」で48件あった。ラジオについての意見は40件、CMについては54件あった。

■意見内容(抜粋)

○番組全般(青少年を除く)関連

<取材・報道のあり方>

- NHKは「大相撲名古屋場所の生中継はやめるが、録画のダイジェストを放送する」と発表した。しかし、相撲放送中の客席に暴力団組員がいてテレビで放送された問題は、何の対処方法も検討されていない。これでは再び、同じようなことが起きる可能性があり、放送が暴力団に悪用されることを放置しているとは思えない。当面、大相撲番組は中止して、有効な対処方法を検討するように指導していただきたい。
- 暴力団がかかわる、野球賭博に汚染された大相撲の中継をやめるべきです。NHKは国民の受信料でなりたっているのですから、当然国民の大多数の意見を尊重すべきです。
- 生中継中止を残念に思っています。いまだに放送中止が納得できません。野球賭博に関係のない力士の方が多く、力士たちが気の毒です。今のダイジェスト放送では、大相撲の醍醐味は伝わりません。
- 本当に悪いのは賭博を設定した暴力団の存在だろう。そこにメスを入れないマスコミの弱腰こそが問われているのではないか。本当の悪に目をつぶり真っ正直に生きてきた力士ばかりに焦点を当てることはどうなのか。厳然として存在する暴力団の存在をどうとらえるのか。社会の必要悪とのとらえ方は否定しなくてはならない。
- 参院選挙の「開票速報」を見た。速報の臨場感を出すために、注目選挙区や注目候補の「当確」が出ると、全国の開票速報の途中にもかかわらず、万歳などのVTRを入れてくる。VTR後に開票の続きを放送すればいいが、注目候補の速報になったりしてめっちゃくちゃだ。また、出口調査を過信し「当確」を早く出し過ぎている。早く「当確」が出ても下位で当選した人もいた。
- 参院選挙で民主党が大敗したが、これは菅総理の消費税発言を大きく取り上げ、世論調査の支持率低下など、民主党に不利な報道をしたからだ。選挙期間中は有権者への影響を考慮し、世論を誘導するような報道はすべきではない。また、選挙特番にアイドルやお笑いタレントを出演させ、バラエティー番組のような扱いをしている放送局もあった。政治に対する真面目な取り組み方が感じられない。
- 内閣および政党支持率の世論調査の回数を減らして

ほしい。国民は世論調査に影響される。世論が支持しているから、または世論が支持していないからと影響されているように思う。特に内閣支持率は支持率が低下し始めると雪崩のように下がる。これはマスメディアの悪影響ではないか。

- 民放の情報番組を見ていると、政治に関する情報は国民主体ではなく、テレビ局本位の批判報道のようで苦々しく思う。重箱の隅をつつくような番組が多い。国会で何が審議され何が決まったかより、誰が失言したか、誰々が悪いとか、野党よりひどいことを政府に質問している。政治評論家と称して出演している中には、我々一般国民より幼稚な解説をしている者もいる。我々に何を伝えたいのかさっぱり分からない。

- メディアが競って政権や政党の支持率を発表しているが、何の目的で行っているのか。ワイドショーのネタ探しとしか思えない。ある局の朝からの生番組などは、司会者がヘラヘラ薄笑いを浮かべ、ゲスト議員を小ばかにしたような内容を放送している。「報道の自由」とは、内容がどうあれ、自由に放送出来るということなのか。メディアの考えを押し付けられるのは、余計なお世話だ。

- 大韓航空機爆破事件の元死刑囚キム・ヒョンヒが来日したことを放送していた。移動中、ヘリで追いかけて、その様子を細部に至るまで伝えていた。移動先の敷地の建物の見取り図までフリップを使って説明していたが、行き過ぎではないか。警察が厳戒態勢を敷いて警備している中、ここまで詳細に放送してしまっただけは警察の努力が水の泡だ。拉致問題や国の外交問題にもかかわる内容を芸能ネタと同様に扱ってはならない。

- 福岡の民放各局は、大雨・水害・交通情報などをテロップで流していますが、CMになるとテロップが消えてしまいます。番組が始まると、また最初からの情報が流れ、最後の情報にはなかなかたどりつきません。CMが終わるまで我慢していても、さっき見た情報からまた始められるとイライラします。3月のチリ地震の津波警報のように、CM中もずっと情報を流し続けてほしい。福岡県民にとっては津波以上に大雨情報は即時性を要するのです。

- 韓国俳優の自殺についてです。現地の配信に委ねずに、各テレビ局は独自取材のために韓国まで出向いたのだろうか。マスコミの対応が理解できない。結果として、マスコミに乗せられた一部の日本のファンまでも現地に出向き、情けなかった。そっとしておいてあげることが、人間としての道理ではなからうか。

<番組全般・その他>

- 出演者に危険なゲームばかりさせていて、怪我人が

出るのではないかとハラハラした。後半の、椅子を執拗に回すシーンは不快以外の何ものでもなかった。いい大人が公開いじめをするさまを放送していた。顔面蒼白の出演者に「死後硬直」とスーパーを載せるとは制作者の神経を疑う。番組の制作者の中に誰一人として疑問を持つ人間がいなかったのかと呆れて物も言えない。悪質にも程がある。不快極まりない。

- ダウンタウンの浜田に「止めて!」と訴えても、執拗にイスを回され、顔色が青くなった様をまわりの同じ芸人やスタッフが笑っていることが不快きわまりなかった。舞鶴で手足を縛られ重りをつけられた状態で海に蹴り落とされ亡くなった少年の事件がすぐに頭に浮かびました。ゲームでも何でもありません。番組をやめてほしいです。

- 問題だらけの番組でした。熱中症などによる脱水症状で倒れてしまった人がある中で、三輪車レースをやり続けたことは問題です。テレビという影響力の強いメディアが熱中症でも頑張る姿を放送することで、熱中症への認識が甘くなります。また、タレントが駅伝で熱中症になりました。しかし、それでも企画を続け、タレントに200mですが走らせました。命にかかわることなのに、認識が甘いと思います。

- テレビを見てこんなに不快になったのは初めてです。いくら作り話とはいえ、子供がいたぶられながら殺されるシーンはあまりにもひどい。身が震えるほどに不快で、犯人ではなく制作者に強い怒りを感じました。いくら話題を作り視聴率をとりたいたからといって、やっていい限度を超えています。あのシーンは必ず模倣犯を生みます。テレビはどうなってしまうのだろうと不快で情けなく、ただただ涙が出ました。

- アナログテレビで見ているが、今日から突然、画面が小さくなった。今までは上下に黒い帯が入って横長の画面だったが、今日からはそれに加え左右にも黒い帯が入った。小さなテレビなのでさらに一回り小さくなり非常に見づらい。総務省に電話をすると「地デジ対応テレビの購入を促すためにテレビ局と協力して、わざと小さい画面表示にしている」と言われた。テレビを買えない貧乏人に対する嫌がらせだ。

- 1年後に地デジへ完全移行することは、十分に理解している。しかし、各家庭に経済的な事情があるため、地デジ化していないだけである。これは、国を挙げてのアナログ弱者いじめではないか。バラエティー番組がいじめにつながると言って規制ばかりしているが、こちらの方がよっぽど問題だ。

- 最近のテレビ番組は略語が多過ぎて理解できないことがよくある。例えば情報番組で「デバチカ」という言葉が出ていたが、「何のことだろう」とあれこれ考えているうちに分からないまま番組が終わってしまった。後で孫に聞いて知ったのだが、「デパートの

地下売り場」の略称だという。若い子同士の会話で使うならともかく、そうしたおかしな造語をテレビ番組で堂々と使うのはやめていただきたい。

- スポーツ新聞や週刊誌の記事を題材にした放送が多い。放送するからには内容についてはしっかり責任をとってほしい。テレビを通して聞いたニュースは確かな報道のような勘違いを起こしやすい。スポーツ新聞や週刊誌はいい加減な報道をするものと思っていましたし、面白おかしければよいと考えていました。テレビで流れると、思わず信じてしまいそうになります。真実かどうか確認してから報道する義務があると考えます。
- 最近、YouTubeやニコニコ動画等で閲覧できる映像を利用し、ナレーションや字幕などとともに芸人や役者の顔窓やコメントを利用している番組が多い。各局で放送しているので、同じ内容を何度も見たりする。YouTubeなど動画サイトや動画製作、投稿者にきちんと許可をとっているのだろうか。以前知人が投稿した動画がテレビで放送されたので、知人に連絡すると本人が驚いていたので権利の所在など確認を怠っていると思われる。個人の権利はどうでもよいのだろうか。
- 投稿動画だけで構成されたスペシャル番組が多い。どの局もこぞって放送しているが、金がないのか、それとも番組を自分たちで作ろうという気がないのだろうか。インターネット上にあるものだから、視聴者の中にも見たことのある人は大勢いるだろう。なぜ素人の投稿動画だけを使って番組を構成するのか。海外の素人の動画や動物の動画をスタジオにいるタレントが笑って見ているだけだ。手を抜いているとしか思えない。

<ラジオ>

- 民放連のラジオCMで、子供が「温暖化すると砂漠の中を通学することになるかも」と言っていた。いくらなんでも、人為的要因の温暖化で、砂漠の中を通学することになるとは思えないし、そんな意見をどの研究者からも聞いたことがない。間違った考えを世に流布するものだ。

<CM>

- 今月は選挙があったが、「ソフトバンク」の白戸次郎が選挙に出馬するCMが気になった。放送の法律がどういいう仕組みかはわからないが、選挙期間中にかかわらず、そんな嘘話を放送して大丈夫なのだろうか？

<BPOへの意見>

- ラジオでBPOの告知を聞いたが、「〇〇していないよね？」という言い方は、いじめをしている人が言うような言い回しで、聞いていて不愉快になる。今後、

告知を作るときには「〇〇していませんか？」にしてはどうか。

○青少年に関する意見

◎低俗、モラルに反する

- 司会者が出演者に「こいつ脳死だ」などと言っていたが大変不快に感じた。あってはならない発言だ。実際に脳死の方々にも失礼であり、テレビ番組で人に言って良い言葉とは到底思えない。番組を見ていた子どもが真似したりでもしたら問題ではないか。
- ゲストのお笑い芸人が出版した絵本や色紙などを出演者らが蹴飛ばしたり踏み付けたりした。何故そんなことをしたのかは分からないが、理由はどうであれ大切な作品を傷めたり汚したりするとはひどい。芸能人がそのような行為をしては子どもの手本にならない。
- お笑い芸人が地方に行き、女子高生をスカウトし、男性誌でグラビアデビューさせるという企画があるが、いかがなものか。街中で声をかけ、親の承諾を得るために家を訪ねるという内容だが、承諾する親が多いことにも驚く。危険なこの時勢、犯罪や事件に発展するということも考えないといけない。安易に承諾する親の気も知れないが、こういうコーナーは必要ないと思う。
- 子ども番組でのお笑い芸人の歌が小学生にはふさわしくない。この歌は「女子だって、気に入らない男子がいたら我慢しないでパンチをしてよい」という内容だ。暴力を肯定する歌は放送してほしくない。

◎暴力・殺人シーンに関する意見

- 子どもを惨殺した犯人に主人公が復讐するというドラマだが、残酷なシーンが多く見るに堪えない。恐怖でおしっこを漏らしてしまった子どもを犯人が面白がるシーンは、明らかに常軌を逸しており、ドラマとしても一線を越えている。21時台だと子どもも見られる可能性が十分にある時間帯だ。痛ましくて気分が悪くなり、途中で見ることをやめてしまった。

◎いじめに関する意見

- 女性芸人に痴漢行為をする男性芸人を笑って許す場面や、いすに座って何回転もさせられ顔色が悪くなっている芸人を司会者がどなりつけて無理やり再度いすに座らせ回転させる場面は、力の強い者による弱い者いじめ以外の何ものでもなくセクハラ・パワハラでもある。人が嫌がったり、苦しむ様子を見て笑いをとろうとする番組作りは最低だ。
- 芸人が後輩の頭をバリカンで勝手に剃るという行為をしていたが、立場を利用してのいじめに繋がる場面でも不快に感じた。一般社会では絶対許されない行為ではないか。その後も、ゲストの家で裸になりゲ

ストの妻と布団に入る、生きた魚をテーブルや床で跳ねさせるなど、自分の家にこのようなことが起きたらと思うとゾッとする場面ばかりで、良識がないのかと思わせる内容だった。子どもの成長に有害だと感じる。

◎性的表現に関する意見

●“新番組”ということで子どもと楽しみにしていた。ところが、番組が始まってすぐに子どもの殺害シーンや過激な性描写があり驚いた。21時台の番組は子どもを含めた家族で見る時間帯でもある。キスシーンくらいならともかく、露骨な性描写まで放送するのは行き過ぎではないか。映画であればR指定などで見るかどうかの判断も可能だが、テレビでは内容が確かめられないまま子どもでも見る可能性がある。配慮が必要だ。

●小中学生が帰宅する時間帯の夕方の情報バラエティー番組で、性の記事や話題を特集するのはいかがなものか。ゲストコメンテーターまで自身の性的な体験談などを語る始末だ。いき過ぎた内容を一刻も早く改善すべきではないか。

●深夜のバラエティー番組だが、深夜とはいえ子どもが見るかもしれない。パジャマを脱がしあい、その下に着ている水着姿になり、その様子を股間や胸などに迫って映す行為は不適切すぎる。そもそも水着姿ばかり映す番組がなぜ成り立つのか。なぜやめさせないのか。もう少しモラルをもって番組を管理してもらえないか。

◎危険行為に関する意見

●クイズ番組で、限界に挑戦させようと狭い部屋の天井を徐々に下げて圧迫したり、密封された中に放水して首まで水につからせたり、水の中に答えを取りに潜らせたり、どう考えてもやりすぎではないか？水の圧力の恐ろしさがわかっているのだろうか？制作者が過激な番組を作らなくてはならないように追い詰められている感じを受ける。事故などが起きないうちに再考を求める。

◎動物に関する意見

●狼犬に人を噛み殺させるというきわめて悪質なドラマだ。国内でも土佐犬など大型犬に噛まれて大怪我をしたり亡くなる人が出ている。動物を凶器に使うなど最低である。こういった番組は子どもたちの健全な育成に大きな影響がある。愛犬家から見ても許せない番組だ。

◎推奨番組に関する意見

●差別されがちなサブカルチャーやネット文化をちゃんと評価し、上手く扱った良い番組で、なかなか面白かった。マニアックな内容や独特な表現で正直わからないところもあったが、そこもまた良いところ

なのだろう。放送局には、サブカルチャーを学術的に評価したり、言論・表現の自由や内心の自由の意味や意義をどう考えるか、科学的・論理的に扱った番組を作ってほしい。

◎残虐シーンに関する意見

●子どもが見る時間帯のアニメであるにもかかわらず、戦闘で血が飛び散るシーンがある。少し見て気分が悪くなった。このアニメには配慮がなく、殺すことが格好良いように表現されていて問題だ。深夜夕方を問わずこういった残虐アニメが増えている気がする。売り上げや視聴率を求めることは仕方ないが、最低限のルールを作らないとモラルが崩壊する。

◎CMに関する意見

●使用無料を全面に出しているゲームの広告だが、有料部分をわかりやすくして無料部分と合わせて広告しないと詐欺に値すると思う。また、「盗む」というキーワードでゲームのツールを盗むことに引っ掛け、人の“彼”を盗む行為を演出している。道徳的に悪影響を与えることは必至である。

◎視聴者意見への反論・同意

●「人を馬鹿にしたり、下品なことを言う番組」について、テレビからこれらを取り除くことで世の中が良くなるのだろうか。テレビの環境浄化で良い子が育つのなら学校は不要だ。また、BPOはテレビの警察でもなければ、視聴者の不満や愚痴のはけ口でもない。その点を履き違えている意見が多すぎる。

●最近のBPOの視聴者意見は言葉の表現や方言、それにバラエティーへの批判が多すぎる。「方言を直せ、分かりづらい」などの言葉の批判は方言への差別に値する。また、バラエティー番組は笑えて人生を楽しくするものだ。「殺すぞ」などの言葉については制限してもいいと思うが、細かい表現にいちいちつかかっていたら自由に発言できなくなる。今の放送は取り除かなくてもいいものまで取り除いていると思う。

●ドラマでの暴力・殺人シーンについて「子どもに悪影響」との意見に賛成だ。映画にはR指定などがあり、過激な暴力や性表現などを扱った作品では子どもは入場できないが、テレビはどの年齢でも見ることができてしまう。親子で話し合うことも重要だが、すべて視聴者に任せることは危険だと思う。

■ BPO事務局から

◆第2回事例研究会を開催

BPOは8月3日午後、第2回BPO事例研究会を千代田放送会館2階ホールで開催しました。各委員会が出す決定への理解を深め、決定への意見や現場が抱える問題点を出し合って今後に活かしてもらうのが目的で、昨秋に次ぐ開催です。39社110人が参加しました。

今回のテーマは、「生番組出演者の発言と放送局の責任」と「委託制作における放送局の責任～取材・報道のあり方をめぐって」の2つ。前者は本年3月の放送人権委員会「拉致被害者家族からの訴え」事案の「委員会決定」、後者は4月の放送倫理検証委員会「ブラックノート詐欺事件報道に関する意見」がベースで、それぞれ坂井真委員と服部孝章委員が報告し、3時間にわたって活発な意見交換が行われました（次号に概要掲載）。

◆BPO調査役の講師派遣について

BPOでは、構成員各社が社内研修や勉強会などを開催する際、ご要望に応じ、講師としてBPO調査役などを派遣しています。

BPOの事務局員が各社に伺って委員会決定などを具体的に説明し、理解を深めていただくとともに、BPOに対する意見をいただき、委員会の審議などに役立てることを主旨としています。

各社の負担は原則不要ですが、テーマや講師・日程等については相談させていただきます。

<連絡先>

BPO総務 電話 03-5212-7320

FAX 03-5212-7330